

年 組 (氏名)

[有明抄] (2018.2.2)

\* 関連記事 佐賀新聞 2018年1月27日 (土) 2面

○「終末時計」が最短の2分前になった2回についてまとめよう。

1953年 (前回1回目) …

2018年 (今回2回目) …

○最近の核兵器をめぐる動きについてまとめよう。

Blank box for notes on nuclear weapons.

○「唯一の被爆国」日本はどのような立場をとるべきだと考えますか？  
自分の意見を書こう。

Blank box for opinion on Japan's stance as the only nuclear-affected country.

○「時計の針を戻せ」を英語にしてみよう \_\_\_\_\_

Large grid for writing the English translation of 'Bring the clock hands back'.



○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

Blank box for writing a title for the article.

有明抄

その振り子時計は「11時2分」から、2度と動くことはない。長崎市の原爆資料館。あの日、爆心地から800mの民家で使われていた。止まったままの針を見つめていくと、いきなり口唇を断ちきられた人々がどれほど無念だったのかと胸をつかれる。◆人類滅亡の日までの残り時間を示す「終末時計」の方は、また進んでしまった。米誌が国際情勢を分析して、毎年発表しているが、私たちに残された時間は、たった2分。「これまで緊迫したのは、過去に1度だけしかない。米ソが水爆開発を進め、核戦争が現実味を帯びた1953年である◆冷戦終結を受け、91年には「残り17分」まで針は戻されていた。その後、インドやパキスタンが核保有へと走り、拡散すべしとの脅威も加わって、人類の残り時間は少しずつ削り取られてきた◆ぶたたび残り2分まで迫った原因は、北朝鮮である。米国のリーダーがトランプ氏になったのも大きい。北朝鮮側が「核のボタンが私の事務室の机の上だ」と言い放つ。自分の方が「はるかに大きく、はるかに強力だ」と応じる。飛び交う言葉はいかに危うい◆迫り来る危機で、国際NGO「ICAN」をはじめ、各国は禁止条約の発効へと急ぐ。唯一の被爆国である日本が煮え切らないのは残念だが、世界の声はひとつ、「時計の針を戻せ」。

(中)